

平成26年3月期決算について

平成26年5月12日



地域をみつめ 未来をみつめ

大分銀行

平成26年3月期 連結決算

1. 平成26年3月期連結経営成績

(単位：百万円)

	26年3月期	25年3月期	増 減	
経常収益	59,045	56,839	3.9%	2,206
経常利益	14,842	10,213	45.3%	4,629
当期純利益	8,271	7,206	14.8%	1,065

公表金額 (11月11日公表)	公表比	
60,400	2.2%	1,355
15,000	1.1%	158
9,200	10.1%	929

平成27年3月期業績予想

(単位：百万円)

	27年3月期	26年3月期	増 減	
経常収益	56,400	59,045	4.5%	2,645
経常利益	7,700	14,842	48.1%	7,142
当期純利益	4,500	8,271	45.6%	3,771

当行単体で、増収増益となったことから、連結ベースでも、経常利益段階で24年3月期以来2期ぶりの増収増益の決算となりました。経常利益の増加により当期純利益も増益となりました。

2. 平成26年3月期個別経営成績

(単位：百万円)

	26年3月期	25年3月期	増 減	
経常収益	49,738	47,566	4.6%	2,172
経常利益	13,581	8,754	55.1%	4,827
当期純利益	7,012	5,453	28.6%	1,559

公表金額 (11月11日公表)	公表比	
51,200	2.9%	1,462
13,700	0.9%	119
7,700	8.9%	688

平成27年3月期業績予想

(単位：百万円)

	27年3月期	26年3月期	増 減	
経常収益	47,000	49,738	5.5%	2,738
経常利益	6,700	13,581	50.7%	6,881
当期純利益	4,000	7,012	43.0%	3,012

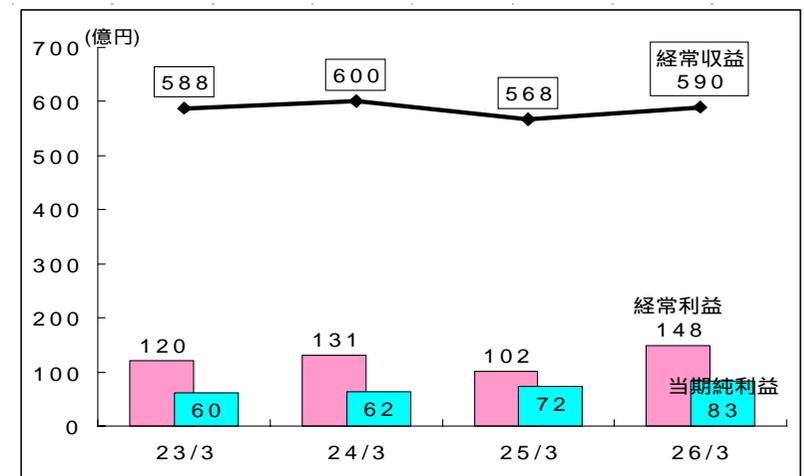
単体ベースでは、有価証券利息や手数料収入の増加、さらに貸倒引当金戻入益の計上により、経常利益段階で24年3月期以来2期ぶり増収増益の決算となりました。当期純利益も経常利益の増加により増益となりました。

3. 配当の状況

	平成23年度 実績	平成24年度 実績	平成25年度 実績	平成26年度 予想
中間配当金	3円00銭	3円00銭	3円00銭	3円00銭
期末配当金	3円00銭	4円00銭	3円00銭	3円00銭
年間配当	6円00銭	7円00銭	6円00銭	6円00銭
配当性向(連結)	16.4%	16.1%	11.9%	22.4%

(注)24年度期末配当には、創立120周年記念配当1円を含んでおります。

平成25年度期末配当は、1株当り3円で決議いたしました。



平成26年3月期 単体損益の状況

平成25年度通期決算【単体】

(百万円)

		26年3月期	25年3月期比		25年3月期	公表金額	
			増減率	金額		公表比	
経常収益	1	49,738	4.6%	2,172	47,566	51,200	1,462
業務粗利益	2	39,583		167	39,750		
(除く国債等債券損益(5勘定戻))	3	(38,231)		(152)	(38,383)	38,400	169
資金利益	4	32,972		359	33,331		
役務取引等利益	5	5,275		238	5,037		
その他業務利益	6	1,335		45	1,380		
(うち国債等債券損益)	7	(1,352)		(14)	(1,366)		
(国債等債券売却益)	8	1,540		634	2,174		
(国債等債券売却損)	9	187		15	172		
(国債等債券償還損)	10			634	634		
経費(除く臨時処理分)	11	31,031		1,073	29,958	31,400	369
業務純益(一般貸倒繰入前)	12	8,551		1,240	9,791		
コア業務純益	13	7,199	14.5%	1,225	8,424	7,000	199
一般貸倒引当金繰入額	14			1,317	1,317	0	0
業務純益	15	8,551	23.0%	2,558	11,109	8,200	351
臨時損益	16	5,033		7,383	2,350		
不良債権処理額	17	3		3,024	3,027	0	3
(貸倒償却引当費用 +)	18	3		1,706	1,709		
貸倒引当金戻入益	19	3,672		3,672			
償却債権取立益	20	0		2	2		
株式等関係損益	21	482		665	183		
(株式等売却益)	22	644		200	444		
(株式等売却損)	23	27		318	345		
(株式等償却)	24	134		149	283		
その他臨時損益	25	882		24	858		
経常利益	26	13,581	55.1%	4,827	8,754	13,700	119
特別損益	27	1,369		732	637		
うち固定資産処分損益	28	576		366	210		
うち減損損失	29	792		365	427		
税引前当期純利益	30	12,212	50.5%	4,096	8,116		
当期純利益	31	7,012	28.6%	1,559	5,453	7,700	688
与信費用	32	3,668		5,375	1,707	4,500	832

【主な増減要因等】

経常収益(項番1)：前年同期比+2,172百万円
 ・有価証券利息の増加、手数料収入の増加、貸倒引当金戻入益の計上

コア業務粗利益(項番3)：前年同期比 152百万円
 ・有価証券利息は増加したが、貸出金利息の減少により資金利益は減少
 ・預り資産販売手数料等の増加により役務利益は増加

経費(項番11)：前年同期比+1,073百万円
 ・新勘定系システム稼働による物件費の増加

コア業務純益(項番13)：前年同期比 1,225百万円
 ・コア業務粗利益の減少、経費の増加

与信費用(項番32)：前年同期比 5,375百万円
 ・一般貸倒引当金は取崩
 正常先・要注意先の残高は増加したが、引当率の低下により取崩
 ・不良債権処理額も取崩
 実態に合うように評価額を合理的にかつ適切に見積もったことによる未保全額の減少や回収・バルクセール等により取崩

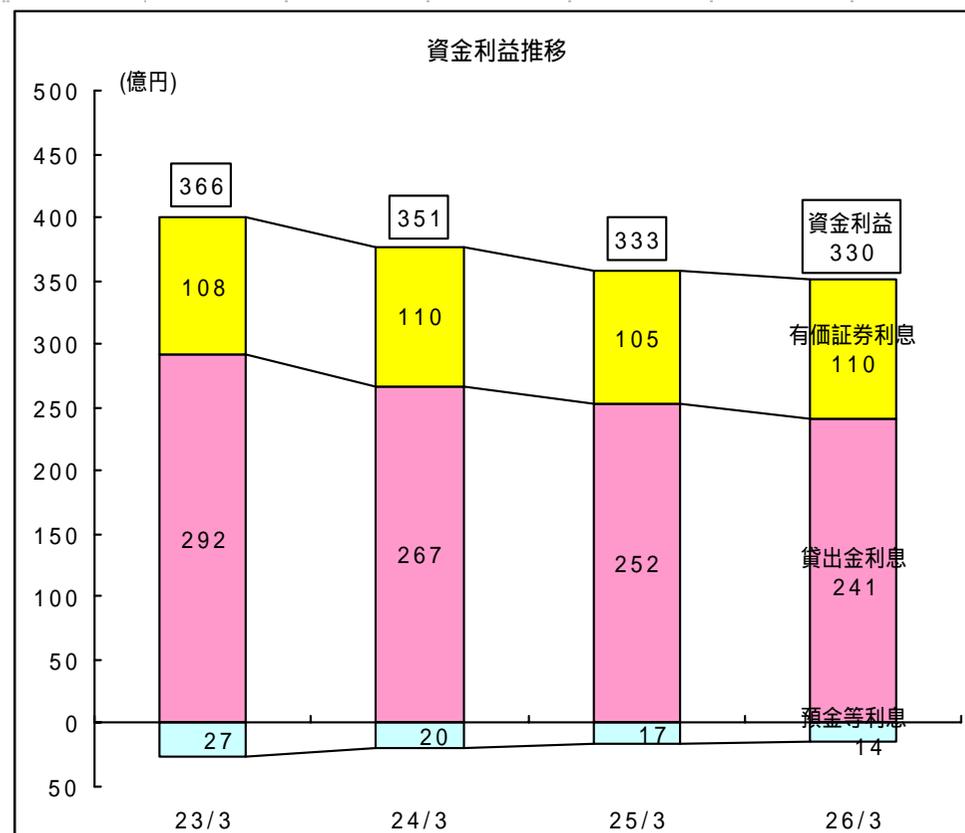
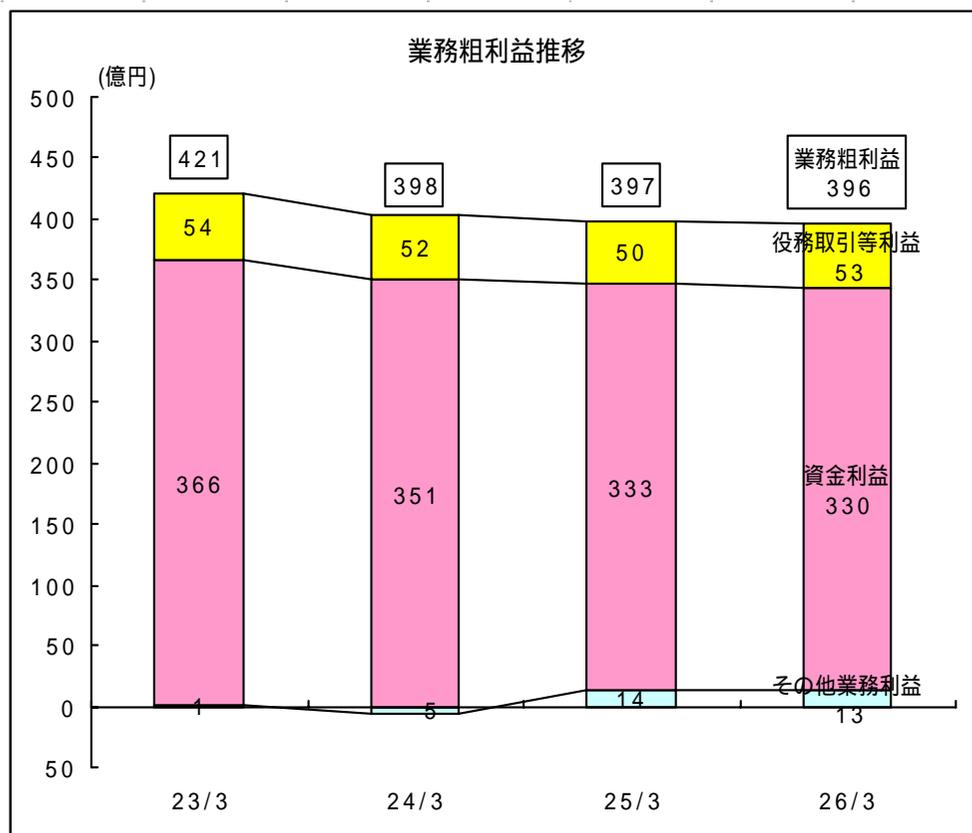
経常利益(項番26)：前年同期比+4,827百万円
 ・経常費用は、経費は増加したものの、与信費用の減少により前年同期比減少。経常収益が貸倒引当金戻入益の計上により増加したため、経常利益は前年対比増益

当期純利益(項番31)：前年同期比+1,559百万円
 ・経常利益の増加により増益

公表金額(平成25年11月1日)対比
 ・経費は公表を下回ったものの、貸倒引当金戻入益の減少により、経常利益は公表を下回りました。さらに特別損失の増加により当期純利益とも公表金額を下回りました。

与信費用 = 一般貸倒引当金繰入額 + 不良債権処理額 - 貸倒引当金戻入益 - 償却債権取立益

業務粗利益・資金利益の状況



資金利益は、有価証券利息は増加したものの、貸出金利息の減少をカバーするには至らなかったことから、前年同期比3億円減少し、330億円となりました。

役員取引等利益は、受入手料の増加により役員取引等収益が増加したことから、前年同期比3億円増加し、53億円となりました。

その他業務利益は、前年同期比1億円減少し、13億円となりました。

貸出金利息は、貸出金平残は増加したものの利回りの低下により、前年同期比11億円減少し、241億円となりました。

有価証券利息は、有価証券平残の増加と利回りの上昇により、前年同期比5億円増加し、110億円となりました。

預金等利息は、預金等平残は増加したものの、利回りの低下により、前年同期比3億円減少し、14億円となりました。

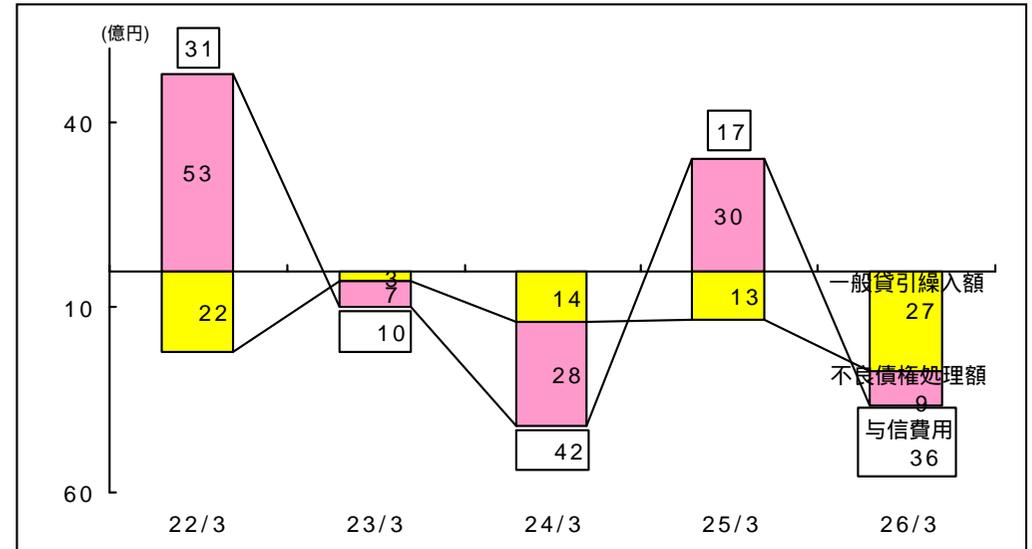
与信費用・不良債権の状況

(単位：百万円)

	26年3月期	25年3月期	増減
与信費用	3,668	1,707	5,375
一般貸倒引当金繰入額		1,317	1,317
不良債権処理額	3	3,027	3,024
貸出金償却	0	0	0
個別貸倒引当金繰入額		3,104	3,104
延滞債権等売却損	21	3	18
その他	18	80	62
貸倒引当金戻入益	3,672		3,672
償却債権取立益	0	2	2

(注) 1. 与信費用 = 一般貸倒引当金繰入額 + 不良債権処理額 - 貸倒引当金戻入益 - 償却債権取立益

2. 貸倒引当金戻入益の内訳：26年3月期 一般貸倒引当金繰入額 2,749百万円
個別貸倒引当金繰入額 922百万円



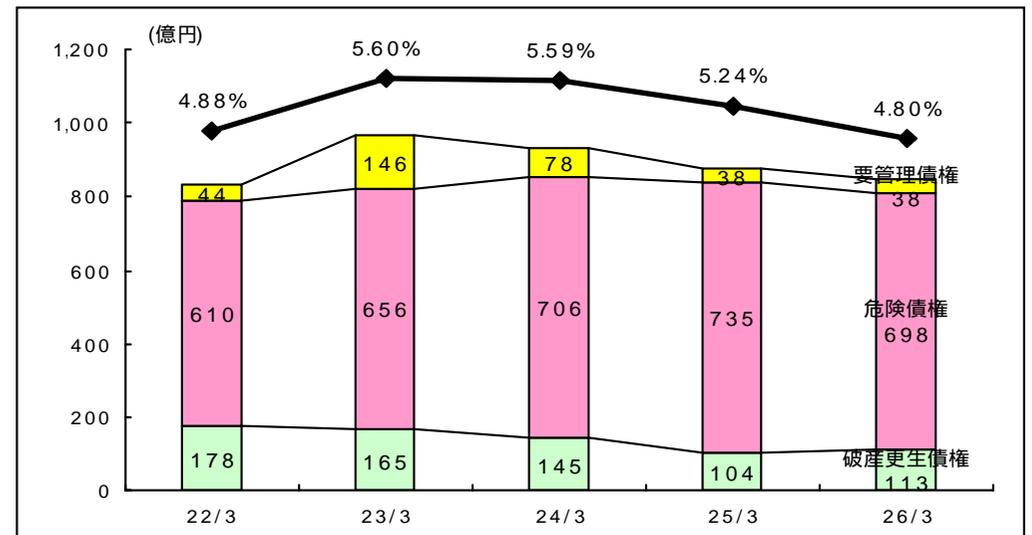
金融再生法開示債権

(単位：億円)

	26年3月末		25年9月末	25年3月末
	25/9末比	25/3末比		
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	113	1	9	104
危険債権	698	6	37	735
要管理債権	38	0	0	38
小計	849	7	28	877
正常債権	16,838	334	990	15,848
合計	17,687	341	962	16,725

(単位：%)

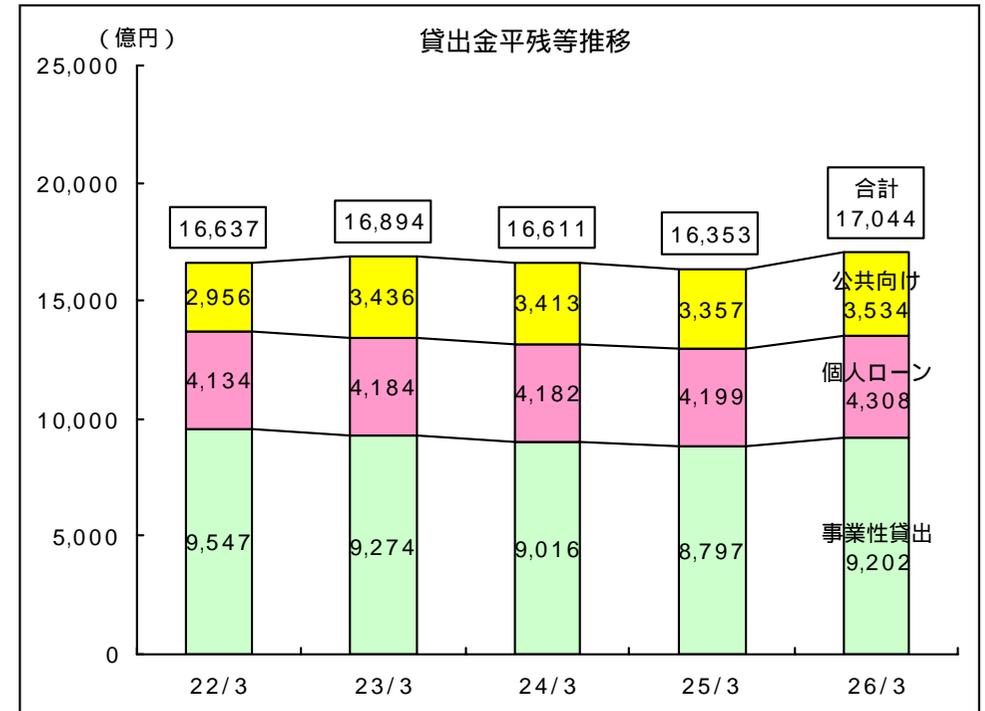
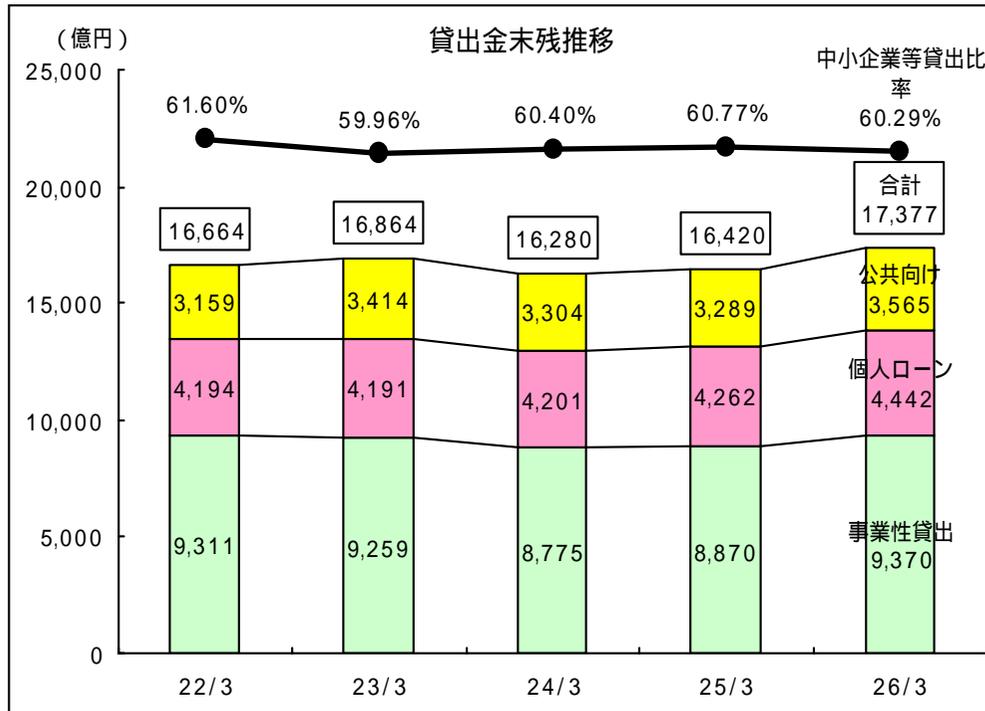
総与信残高比	26年3月末		25年9月末	25年3月末
	25/9末比	25/3末比		
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	0.63	0.01	0.01	0.62
危険債権	3.94	0.04	0.45	4.39
要管理債権	0.21	0.01	0.01	0.22
合計	4.80	0.05	0.44	5.24



金融再生法開示債権残高は、25/9末比では7億円増加したものの、25/3末比では28億円減少し、849億円となりました。

不良債権比率は、正常債権の増加、金融再生法開示債権額の減少により4.80%となり、25/9末比では0.05%、25/3末比では0.44%、それぞれ低下しました。

貸出金の状況



(単位：億円)

	26年3月末				25年9月末	25年3月末	
	17,377	25年9月末比		25年3月末比			
		増減率	増減額	増減率			増減額
総貸出金	17,377	2.0%	342	5.8%	957	17,035	16,420
うち事業性貸出金	9,370	2.6%	235	5.5%	500	9,135	8,870
県内	5,582	4.1%	220	4.8%	262	5,362	5,320
県外	3,788	0.4%	15	6.7%	238	3,773	3,550
うち個人ローン	4,442	2.9%	124	4.3%	180	4,318	4,262
うち公共向け	3,565	0.5%	17	8.4%	275	3,582	3,290

(単位：億円)

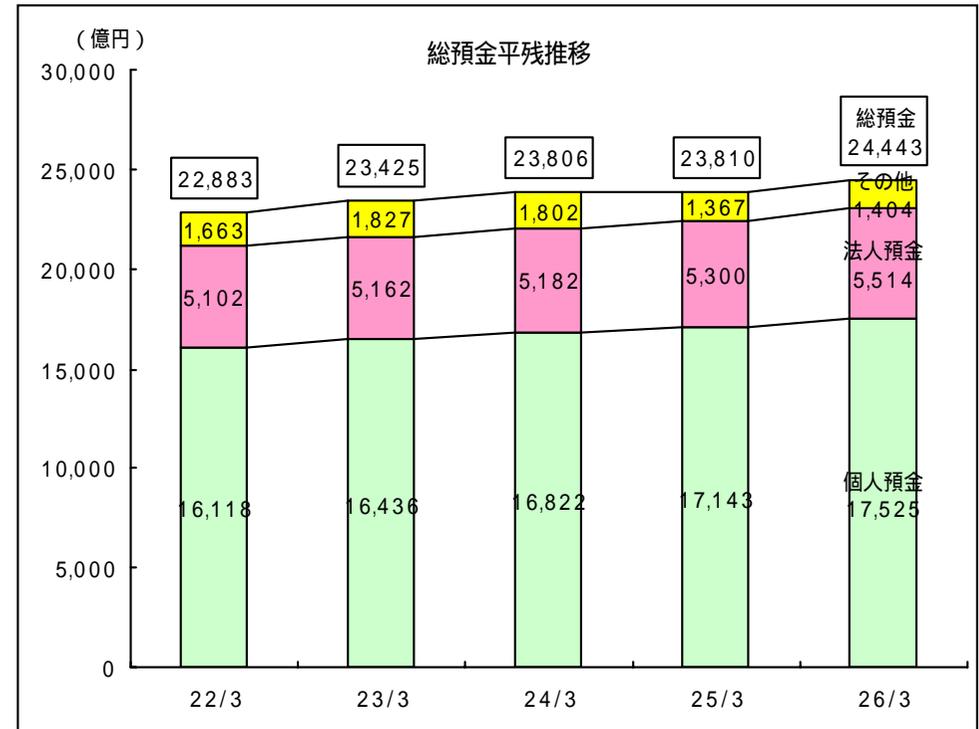
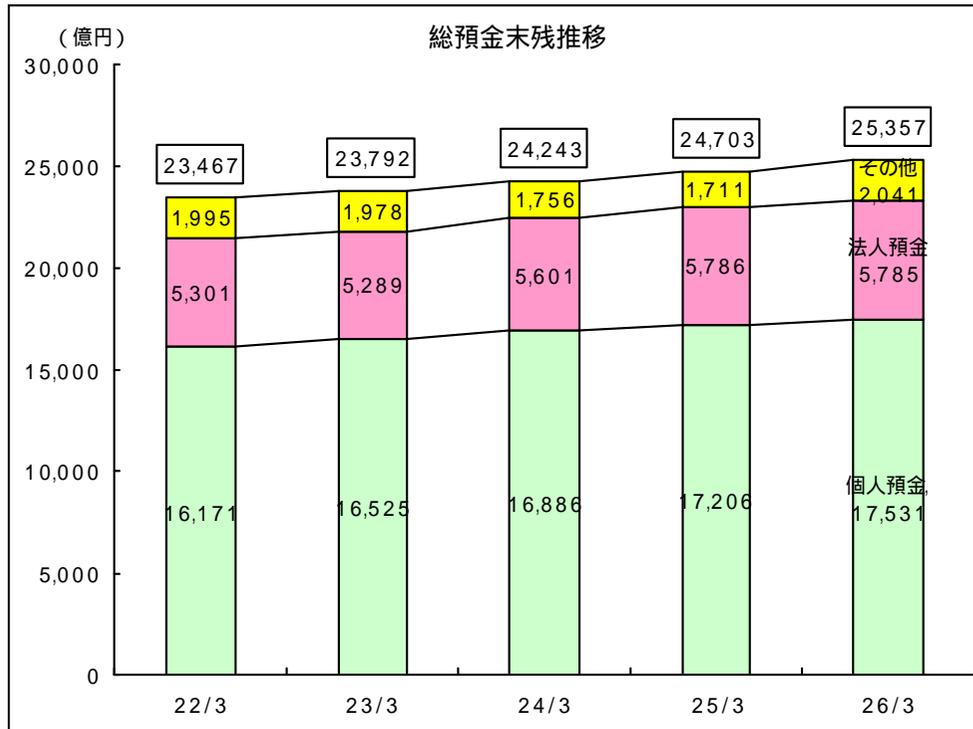
	26年3月末				25年9月末	25年3月末	
	17,044	25年9月末比		25年3月末比			
		増減率	増減額	増減率			増減額
総貸出金	17,044	1.1%	192	4.2%	691	16,852	16,353
うち事業性貸出金	9,202	0.8%	73	4.6%	405	9,129	8,797
県内	5,366	1.7%	91	4.0%	208	5,275	5,158
県外	3,835	0.5%	19	5.4%	196	3,854	3,639
うち個人ローン	4,308	1.0%	42	2.6%	109	4,266	4,199
うち公共向け	3,534	2.2%	77	5.3%	177	3,457	3,357

貸出金未残は、事業性貸出の増加と個人ローンの増加により前期末比957億円増加し、17,377億円（増加率5.8%）となりました。

個人ローンは、住宅ローンのみならず、申し込み条件の見直しや各種プロモーションの実施などにより消費性ローンも増加したことから、前期末比181億円増加し、4,442億円（増加率4.3%）となりました。

貸出金平残は、前期末対比691億円増加し、17,044億円（増加率4.2%）となりました。

総預金の状況



（単位：億円）

	26年3月末				25年9月末	25年3月末
	25年9月末比		25年3月末比			
	増減率	増減額	増減率	増減額		
総預金	4.1%	1,008	2.6%	654	24,349	24,703
個人預金	0.9%	148	1.9%	325	17,383	17,206
法人預金	3.0%	167	0.0%	1	5,618	5,786
その他	51.4%	693	19.3%	330	1,348	1,711
預金等	1.8%	472	3.3%	859	26,248	25,861

（単位：億円）

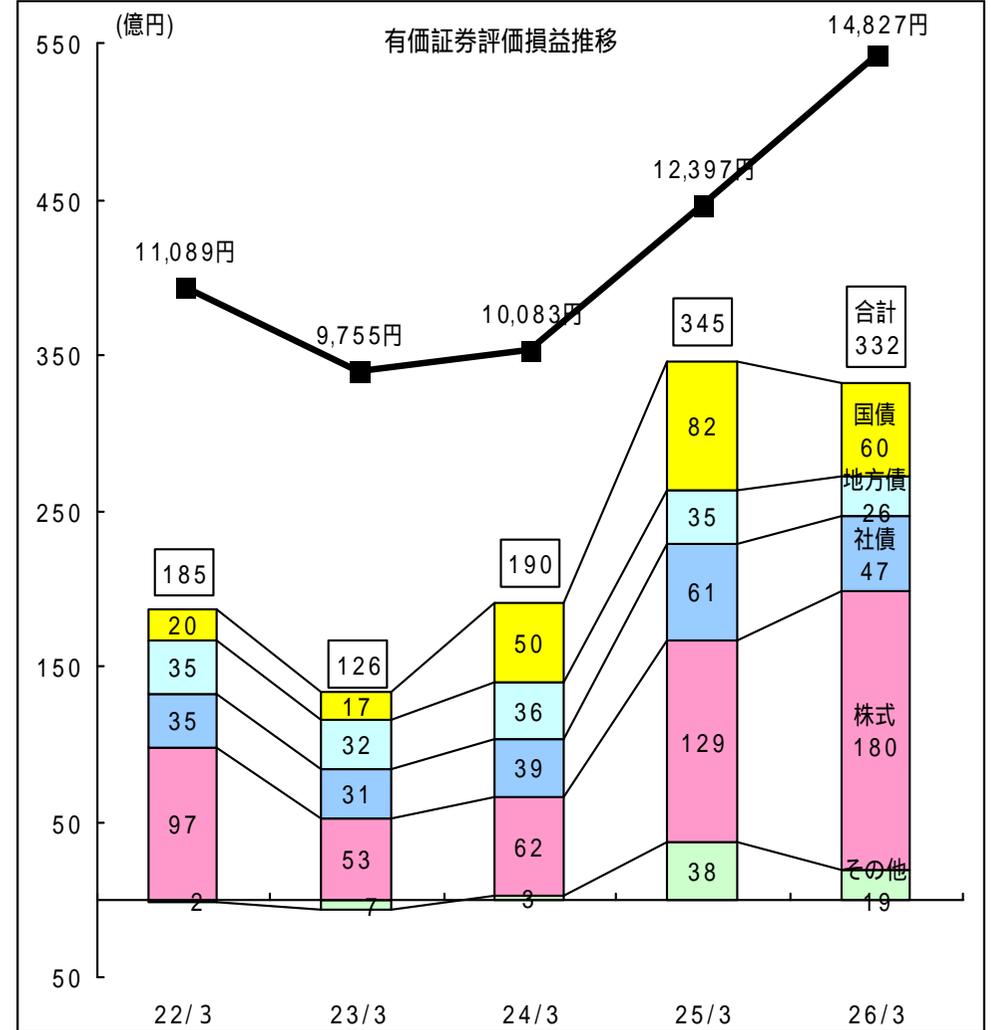
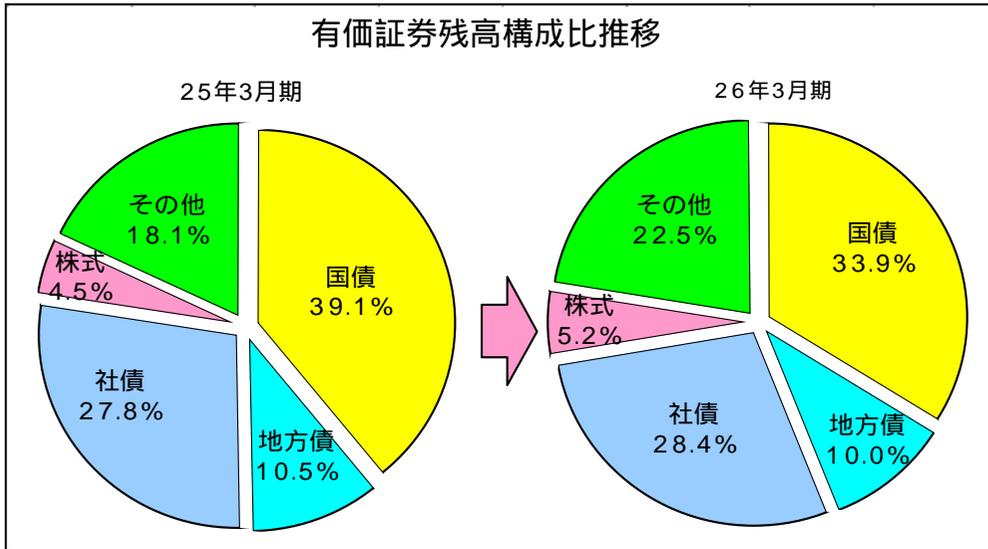
	26年3月末				25年9月末	25年3月末
	25年9月末比		25年3月末比			
	増減率	増減額	増減率	増減額		
総預金	0.1%	23	2.7%	633	24,466	23,810
個人預金	0.5%	89	2.2%	382	17,436	17,143
法人預金	0.2%	14	4.0%	214	5,528	5,300
その他	6.6%	98	2.7%	37	1,502	1,367
預金等	0.1%	27	3.5%	902	26,525	25,650

預金末残は、個人預金の増加を主因に、前期末比654億円増加し、25,357億円（増加率2.6%）となりました。

譲渡性預金を加えた、預金等でも前期末比859億円増加し、26,720億円（増加率3.3%）となりました。

預金等平残は、前期末比902億円増加し、26,552億円（増加率3.5%）となりました。

有価証券の状況



有価証券未残 (単位：億円)

	26年3月期	25年3月期	増減
有価証券	10,496	10,323	173
国債	3,562	4,032	470
地方債	1,051	1,081	30
社債	2,986	2,865	121
株式	546	468	78
その他	2,352	1,877	475

有価証券は積極的な投資を進めたことから、前期末比173億円増加し、10,496億円となりました。

有価証券評価益は、国債等債券残高の減少と債券利回りの上昇はあるものの株価の上昇により、332億円の評価益となりました。

自己資本比率の状況

1. 自己資本比率 平成26年3月期

	バーゼル
連結	12.12%
単体	11.40%

【ご参考】バーゼル 基準 自己資本比率

	26年3月期	25年3月期	増減
連結	11.99%	12.96%	0.97%
単体	11.43%	12.27%	0.84%

25年9月期	増減
12.67%	0.68%
12.06%	0.63%

Tier 1比率

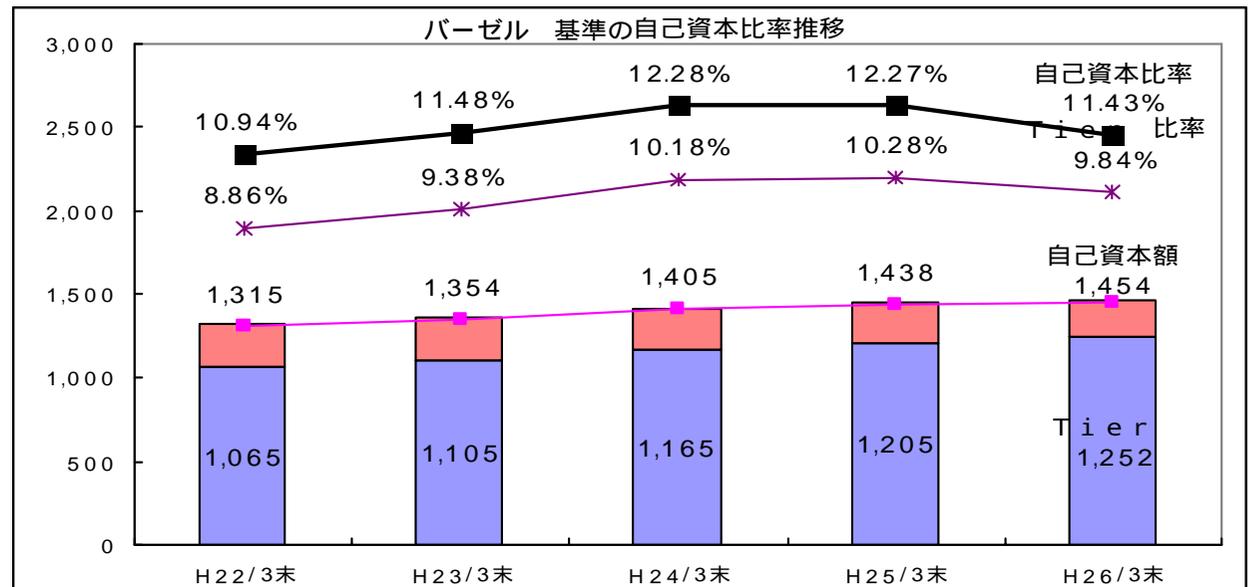
	26年3月期	25年3月期	増減
連結	10.57%	11.08%	0.51%
単体	9.84%	10.28%	0.44%

25年9月期	増減
11.08%	0.51%
10.34%	0.50%

バーゼル ベースでは、Tier 1は増加したものの、一般貸倒引当金の減少による Tier の減少と、貸出金の増加によるリスクアセットの増加により、自己資本比率・Tier 比率はともに、25年3月末対比低下しました。

26年3月期から適用されたバーゼルによる自己資本比率は、連結で12.12%、単体で11.40%となりました。

引き続き、当期純利益の積み上げによる、内部留保の積み上げに努め、安定した自己資本比率の確保を目指します。



平成27年3月期 単体業績予想

【通期】

(単位：百万円)

	27年3月期 予想	26年3月期 実績	増 減	
経常収益	47,000	49,738	5.5%	2,738
経常利益	6,700	13,581	50.7%	6,881
当期純利益	4,000	7,012	43.0%	3,012

コア業務粗利益	39,800	38,231	4.1%	1,569
うち資金利益	34,200	32,972	3.7%	1,228
うち役務利益	5,700	5,275	8.1%	425
経費	31,300	31,031	0.9%	269
コア業務純益	8,500	7,199	18.1%	1,301
一般貸倒引当金繰入額	0			0
業務純益	8,700	8,551	1.7%	149
不良債権処理額	3,000	3		2,997
与信費用	3,000	3,668	181.8%	6,668

【中間期】

(単位：百万円)

	26年9月期 予想	25年9月期 実績	増 減	
経常収益	23,200	28,471	18.5%	5,271
経常利益	3,000	9,841	69.5%	6,841
当期純利益	1,900	6,608	71.2%	4,708

【業績予想の前提】

日経平均株価 14,000円 ~ 18,000円
与信費用 単体30億円 連結33億円

なお、業績予想については、当行が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績予想等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

経常利益・・・前期比 6,881百万円

貸出金利息・有価証券利息等を26年3月期より増加させる計画ではあるものの、与信費用がマイナスからプラスになる見込みのため、減益の見込み。

当期純利益・・・前期比 3,012百万円

経常利益の減少により減益の見込み。

コア業務粗利益・・・前期比+1,569百万円

資金利益は、貸出金利息・有価証券利息の増加により、増加の見込み。役務利益も、投信販売・残高積上げに注力し、増加の見込み。

経費・・・前期比+269百万円

消費税率引上げによる税金の増加により前期対比増加する見込み。

コア業務純益・・・前期比+1,301百万円

コア業務粗利益の増加により増益の見込み。

与信費用・・・前期比+6,668百万円

引当率の低下も止まり、さらに県内の中小企業等向けの貸出金の増加を図っていくため、与信費用は前期対比増加する見込み。

